

2010年デザイン委員会「農都市の可能性と国土の再編成」 ～ 自立した地域運営の確立に向けて～ 【概要版】

上越地域の現状と課題の分析

| 人口 | |
|-------|--|
| 現状と課題 | 人口総数 地域全体としての人口減少 住民の年齢構成 急激な高齢化、若年層の流出 地域内格差 中心都市(上越市)への人口集中と 周辺地域の過疎化の進行 |
| 対応方向 | 地域人口の維持 定住人口減少の抑制 地域経済の維持 高齢社会・人口減少下でも成り立つ産業構造 の構築、交流人口の拡大 高齢者の社会 高齢化に対応した社会システムの構築 参加の促進 戦略的な 財源確保、戦略的投資、事業効果向上、 行政運営 適正な財政運営 |
| 産業 | |
| 現状と課題 | グローバル化の影響を受けやすい「製造業」の比重が大きい 行政の厳しい財政事情から市場規模の縮小が見込まれる「建設業」 の比重が大きい 地域の歴史的な主力産業である「農業」の衰退 高い潜在能力がありながら、激しい地域間競争の最中にある「物流」 |
| 対応方向 | 自立的な産業構造への転換 経済情勢の変化に自律的に対 応できる産業構造を構築するための「攻め」の地域経済戦略 大規模な産業構造の変化への対応 「雇用の確保など「守り」 の地域経済戦略 |

地域運営に参考となる理念

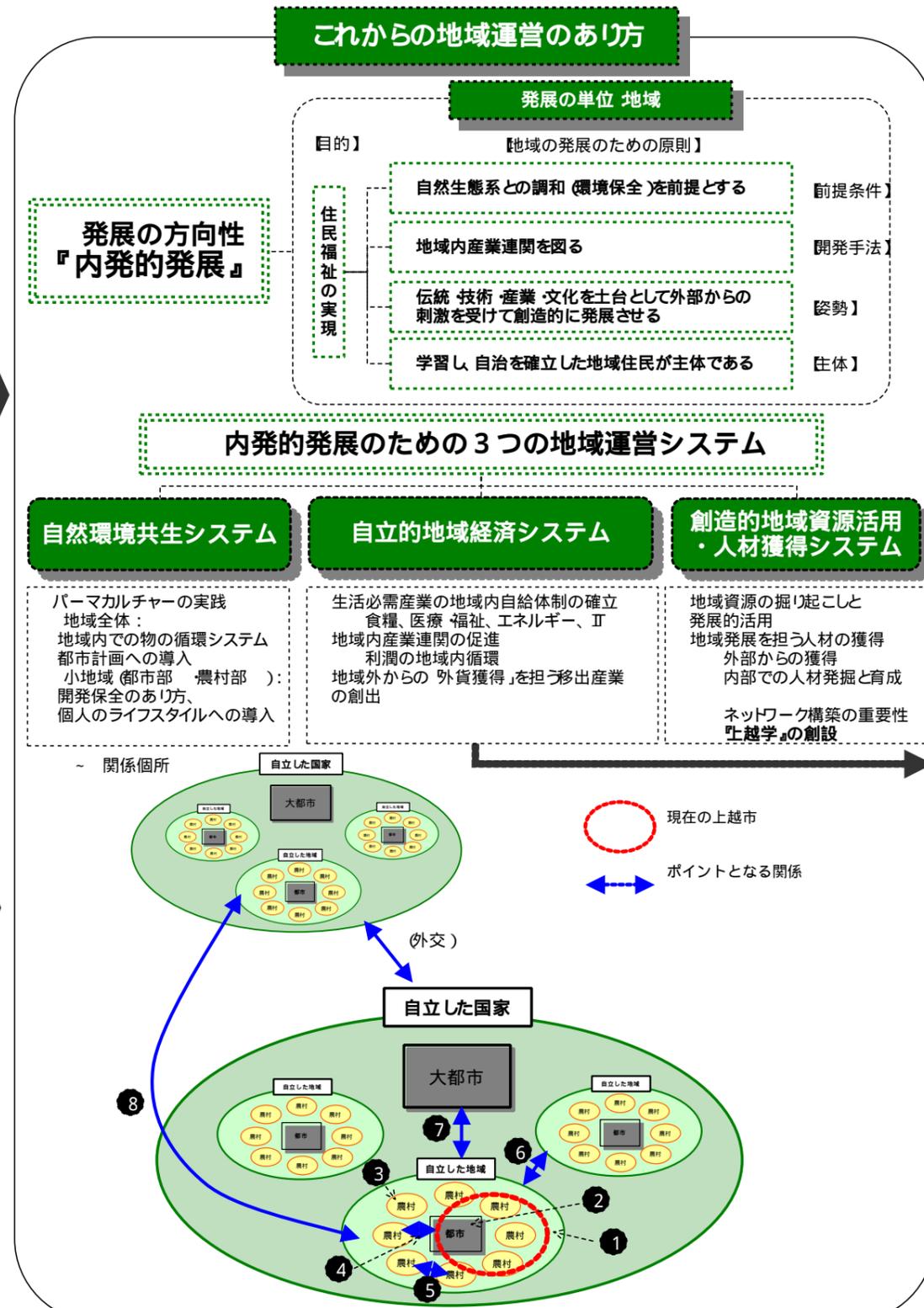
内発的発展論

定義 地域の企業・組合などの技術開発をもとにして、地域の環境を保全しつつ、
資源を合理的に利用し、その文化に根ざした経済発展をしながら、地方
自治体の手で住民福祉を向上させていくような地域開発。

原則 地域開発が大企業や政府の事業としてでなく、地元の技術・産業・文
化を土台にして、地域内の市場を主な対象として地域の住民が学習し
経営するものであること
環境保全の枠の中で開発を考え、自然の保全や美しい町並みをつくる
というアメニティを中心の目的とし、福祉や文化が向上するというような
総合され、なによりも地元住民の人権の確立をもとめる総合目的を
もっていること
産業開発を特定業種に限定せず複雑な産業部門にわたるようにして、
付加価値があらゆる段階で地元へ帰属するような地域産業連関を

| パーマカルチャー | 趣旨 | 要素 | 倫理・原則 |
|----------|------------------------------------|----------------------------------|---|
| | 人間にとっての恒久的持続可能な環境をつくり出すための「デザイン体系」 | 自然のシステム 伝統的な知恵 や文化 適正技術 | 地球に対する配慮 土壌、各種の生物、大気、森林、 微生物、動物、水などを含む、 全ての生物・無生物に対する心配り 人間に対する配慮 人間の基本的欲求を満たすこと 余剰物の分配 余った時間と金とエネルギーを地球と 人々に対する配慮という目的の達成 に貢献できるように使うこと |

「のびやか」プラン・農都市



自立した地域運営を支える 地域産業振興策の提案

今後有望な分野への展開

| | |
|-----------------------|---|
| 新技術・新素材による新産業の創出 | ナノテクノロジー オプトエレクトロニクス産業 バイオインダストリー |
| 時代の要請による新たなビジネス分野への展開 | 介護ビジネス エコビジネス |
| 新たなビジネススタイルの活用 | ベンチャービジネス サイバービジネス コミュニティービジネス |

地域資源を活用した産業振興策

農業ビジネス

農業の第3次産業化
食による地域おこし、農業のレジャー(観光)化
農業トラストの設置
地域の消費者と生産者を結び
農業公社の設置
耕作放棄農地の活用、後継者不足への対応、
新規就農者支援

エネルギービジネス

地域が持つポテンシャルの高さをアピール 産業化
グリーンエネルギーとしての天然ガス活用
冷熱利用
新エネルギーへの取組み

エコビジネス

コンセプト
情報交流・周知啓蒙
知識・技能の集積
行政の支援
地域特性を活かした「上越発エコビジネスの創出」
リユース産業による静脈物流機能高度化・市内零細
企業多角化プラン~の提案
不要となったがまだ使える製品を集積・加工し中古品
として販売する

雪産業

地域特性としての「雪」を産業化
克雪 新技術の開発・研究・活用による拠点形成
利雪 エネルギーとしての活用を視野に
例)雪氷冷熱利用農産物貯蔵施設、雪ダム(水資源)
親雪 地域間交流や情操教育への活用
例)観光化、
冬季レクリエーション関連機器・施設の開発拠点化